

北大大学院工学研究院教授

松藤 敏彦さん



放射線が専門。廃棄物資源循環学会の副会長。上川管内中富良野町出身。55歳。

「放射能がゼロでない」と、「放射能がゼロでない」と受け入れない」とい

う姿勢は明らかに行き過ぎです。市町村側が「住民の理解が得られない」などとして、がれきの受け入れを拒んでいるのは、住民に判断の責任を転嫁しているだけ。まずは基準の意味を担当者が理解し、住民に説明すべきです。確かに福島第一原発事故で国に対する不信感は広がっていますが、科学的な根拠に基づいての判断が求められます。

がれきの受け入れについて、道内各市町村は、道内各地で可能な答えは、昨年4月の50市町村・一部事務組合から、10月には11団体に減りました。放射線物質に対する不安が原因のようですが、正しい理解が欠けていると思われま

国が設けたがれきの処理基準では、焼却灰の放射性セシウム濃度が1キログラムあたり8千ベクレル以下なら埋め立て可能です。これは埋め立て作業従事者の年間被ばく量を1ミリシーベルト以下に抑えられることと根拠

処理基準正しく理解を

と、明確な証拠はありませ

「放射能がゼロでない」とい

う姿勢は明らかに行き過ぎです。市町村側が「住民の理解が得られない」などとして、がれきの受け入れを拒んでいるのは、住民に判断の責任を転嫁しているだけ。まずは基準の意味を担当者が理解し、住民に説明すべきです。確かに福島第一原発事故で国に対する不信感は広がっていますが、科学的な根拠に基づいての判断が求められます。

被災地のがれき受け入れ

東日本大震災で発生した2千万トンを超える岩手、宮城両県のがれき処理が進まない。環境省は全国での広域処理を目指す。福島第一原発事故の放射性物質による汚染の懸念から、受け入れるべきか自治体で対応が分かれている。廃棄物処理の研究者と原発事故にかかわってきた札幌の市民団体の話を聞いた。

論 討 月 曜

の放射線量を浴びているとされ、1ミリシーベルトを下回る数値です。そもそも廃棄物の上に土を30センチかぶせると、放射線量が40分の1になります。8千ベクレルは、そのことも考慮されていません。

がれき処理で利益を得るのは、廃棄物処理業者と、被災地からがれきがなくなくなり、マチが復興したかのように見せられる政府だけです。

被災地のがれきを受け入れようとしている自治体は、放射性物質の恐ろしさが分かっていないのではないだろうか。また、がれきには花粉が付いている程度の認識だとして思えません。

土壌汚染 農業に影響も

物質が流入する恐れがあります。福島第一原発事故で北海道は汚染されています。がれきを受け

の放射線量を浴びているとされ、1ミリシーベルトを下回る数値です。そもそも廃棄物の上に土を30センチかぶせると、放射線量が40分の1になります。8千ベクレルは、そのことも考慮されていません。

がれき処理で利益を得るのは、廃棄物処理業者と、被災地からがれきがなくなくなり、マチが復興したかのように見せられる政府だけです。

NPO法人チェルノブイリへのかけはし代表

野呂 美加さん



のろ・みか 旧ソ連・チェルノブイリ原発事故の被災地の土地保護を道内で受け入れてきた。釧路市出身で現在は北見市在住。48歳。

入れれば、きれいな北海道の土壌が汚染され、安全な農産物を生産できなくなるかもしれない。昨年11月にベラルーシを訪れた際、チェルノブイリ原発事故を機に隣村となった地域で宅地を造成していました。土壌の放射性セシウムの濃度は

年間総被ばく量の基準も、日本はベラルーシに比べて緩すぎます。ベラルーシでは、年間被ばく量が5・5ミリシーベルトと強制的に移住させられました。現在の福島市は毎時1ミリシーベルト、年間だと8ミリシーベルトを超えます。